

令和6年1月 市長定例記者会見

令和6年1月4日(木)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 ただいまから定例記者会見を開始いたします。

初めに、ご連絡事項申し上げます。本日予定しておりました一般事業発表項目の「北陸新幹線敦賀駅内覧会の開催について」につきましては、状況を確認中ですので一旦取下げとさせていただきます。後日、別途プレスリリースさせていただきますので、事前送付しましたプレスリリースは破棄していただきますようお願いいたします。

それでは、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 最初に、今月1日、石川県能登地方を震源とする最大震度7の強い揺れを伴う地震が発生しました。石川県をはじめとする広い範囲で家屋の損壊など大きな被害が生じました。今回の地震によりまして、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われました皆様に対して心からお見舞い申し上げます。

敦賀市といたしましても、他自治体と協力しながら緊急消防援助隊、それから災害派遣医療チームDMATをそれぞれ石川県に派遣しているところです。また、全原協——全国原子力発電所所在市町村協議会としても、会員である志賀町へ救援物資の支援を行ったところです。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、いよいよ本年は北陸新幹線敦賀開業を迎える年です。開業日に向けて、まち全体でこのことをお祝いするイベントの準備も進めています。民間と行政が協力し、北陸新幹線の開業効果が市民の皆様感じられるような飛躍の年にしていきたいと思っています。

また、開業以外にも前に進めたい課題が多くあります。敦賀の未来のために、特に全ての大本になる人口減少対策にはしっかりと手を打っていききたいと思っています。

今年、辰年ということで、「竜の水を得たるがごとし」という言葉がありまして、水を得た竜が天に昇っていくという。場所の利を得て大いに活躍するということが「竜の水を得たるがごとし」という言葉だそうです。今回、新幹線敦賀開業という契機を得て、敦賀市がより一層力を発揮して、竜のように新しいステージへ勢いよく上っていくように全力で取り組んでいきたいと思っています。

今年、令和6年が皆様にとりまして幸多きすばらしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくようお願いいたします。

【秘書広報課主幹】 それでは、本日、事業発表はございませんので、フリーの質問対応

に移りたいと思います。

【記者】 幹事社から3問お伺いいたします。

まず新幹線の開業についてですが、冒頭にもありましたが、いよいよ今年の3月ということで迎えました。市長の意気込みと、改めてになります、どんなまちづくりをしたいか。

あと、イベントが今のところ、まだ見通しが立たない部分もありますが、開業までにどんなイベントを予定しているかというのを少し詳しくお聞かせいただければと思います。

【市長】 新幹線開業まで、あと72日前です。まず準備としましてはイベント関係というのはもちろんあります。先にお答えいたしますと、イベント関係をいろいろ集約していきます。

行政も、それから民間も協力してやっていくと申し上げましたが、民間でもいろいろ考えていただいているみたいです。どこでどのタイミングでやるのかということをもとめて皆さんにお示しすることができたらと思っています。もう72日前ですけれども、イベントも今まだ計画中や、中身をいろいろ考えているというところで、全部が全部、市でやるわけでもありません。

一度、そういうのを皆さんに見ていただいて、こういうイベントがあるのだなということを知っていただくのも大事だと思っています。3月16日前後に行われるイベントについては、また改めて見やすい形でお示しできたらと思っています。

JRでもイベントをされると思いますし、県、市、それから民間という形で、いろんなことがあると思いますので、楽しみにしていただければと思っています。

その後、観光関係もいろんなキャンペーンをやっていくことにはなると思うのですが、一方で、今お話があったまちづくりということもあると思います。

まちづくりについては、3月16日に間に合うのかというと、そうじゃない部分も結構あると思うのですが、新幹線開業でよく言われるのが、開業効果を最大化するという言い方をしますが、そもそも開業効果って何なのだろうと。一番は新幹線が来て、市民の皆さんに本当に来てよかったなと思ってもらえるような、市民にとってメリットを感じてもらえるような、そういうことが開業効果の一つ大事なことだと思っています。

もう一つが先ほどのまちづくりというところ。このタイミングだからこそ、皆さんにいろいろご理解いただきながら大きいプロジェクトを進められるとかいうことができるだろうと思っています、これからのことを考えたまちづくりということも一つ大事なことです。

ろうと思います。

そういう意味では、先ほど観光キャンペーンは3月16日以降もちろんやっていくということも申し上げましたが、3月16日以降も、これはまちづくりにおいても、それから新幹線開業効果を最大化する、イコール市民の皆さんにメリットを感じていただくようにするということについても、まさに3月16日がスタートとして取り組んでいかなければいけないと思っています。

【記者】 1日に起こった能登の地震に関して、先ほどDMATとか全原協として支援という話がありましたが、今後さらに考えられている支援がありましたら教えてください。

【市長】 まず、今日までの話をさせていただきますと、1月1日、地震が起こった当日、その日のうちに敦賀美方消防組合より輪島市へ緊急消防援助隊2隊8名を工作車、それから資機材搬送車とともに派遣しています。現地会議のほうで敦賀の援助隊は珠洲市に赴くことになっております。今現在、珠洲市で活動しているということです。

初めは車両自体、結構大きいものが入れないということがあったんですが、今は工作車も、それから資機材搬送車ともに珠洲市に入れて、活動しているということです。それこそ1月4日、今日の未明0時55分に車両も現地に到着したということです。

それまでは、人員は自衛隊などの協力で現地に入っていたということなのですが、今日の未明に工作車、資機材搬送車ともに入っているという状況です。

それから1月2日には、災害派遣医療チームのDMATに派遣要請がありまして、市立敦賀病院より1隊4名を派遣しています。4名の内訳は医師1人、看護師2人、業務係1名です。1月2日は石川県立中央病院、それから金沢市内で活動しているということです。

先ほども冒頭申し上げましたけれども、全原協の枠組みの中で昨日支援物資を志賀町に職員が自ら持ち運んでいます。

また、今日からということになりますけれども、珠洲市に職員を派遣しております。これは皆さんご承知のように福井県で取りまとめてやっているということで、第1陣に敦賀市の職員が1名参加しております。

これから支援のステージというのがどんどん変わっていくと思うんです。そのときそのときで必要なものというのは変わっていくということが想定されますので、現地の状況を見ながら可能な限り必要な支援を積極的に行っていきたいと思っています。

【記者】 今後考えられているものはありますか。

【市長】 今後については、先ほど申し上げましたとおり現地の状況に応じてとなります。

現地のいろんな要望も聞きながら、例えば物資にしても人員にしても進めておりますので、要望を聞きながらということで、取りあえず今の人を助けなければいけないとか、それから、この物資が足りない。例えば水関係だったりとか、あるいはブルーシート関係だったりとか、ただいま現在必要なものというのは1月1日から4日の間に対応しているということで、それについても現地といろいろやり取りをしながら何を送るかということをやっております。今後も必要なものというのは変わってくると思いますので、現地と相談をしながらやっていきたいと思っています。

【記者】 最後、3点目ですけれども、年末の話になるんですけれども、地元選出国會議員の自民党前国対委員長が任意であります東京地検特捜部のほうに聴取されるという報道もありました。

本人の口からは、しかるべき適切な時期に説明するというので、まだ何も説明がない状況が続いていますが、それに関する聴取も含めた受け止めと、これに関する市政に関する影響、何か考えていることがありましたら教えてください。

【市長】 我々は、報道を拝見する中で情報を得ているような感じなんですけれども、こういう形になっているということは残念に思っています。

市政への影響ということは、我々も敦賀市として、特に中央に要望活動など行くときにはお世話になっているということもありますし、タイミング的には新幹線のことになれば、国の事業でいうと港のこともあれば道路のこともあればということですので、市政への影響というのは少なからずあると思っています。

どう捉えるのかということで言えば、今後、何らかの形で信頼回復が図られるように願っているということです。

【秘書広報課主幹】 次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 先ほどの幹事社の新幹線開業の関連の質問に補足ですけれども、3月16日前後のイベント関連について、見やすい形で示せたらということでしたが、もうちょっと具体的にありましたらお願いします。

【市長】 今、市長室のホワイトボードに貼ってあるものがあって、それは3月16日、17日ぐらいで、どういうイベントが計画されていて、誰が主催で、そういうものの一覧表が貼ってあって、その横には敦賀市内の地図が貼ってあって、どこでどのイベントをやるかというのが書いてある。それがまだ全部フィックスされてない状況なので、ある程度フィックスできたら、なかなか直前まで分からないものもあると思うので、ある程度の段

階で、そういう形でお示しできたらと思っています。どこでどういうイベントをやるというのが分かるような表を皆さんと共有できたらと思っています。

【記者】 発信の方法は、今まで市長がやられているような活動日誌などそういったものですか。フェイスブックとか。

【市長】 やはりペーパーで皆さんにお見せし見ていただいたほうが分かりやすいかなと思いますので、まだやり方は全然決めてないですけども、何らかの形で分かりやすくお示しできたらと思っています。

【記者】 もう1点ですけども、年末に新しい総合計画についてのワークショップがありまして、そこで結構、高校生たちを中心に、具体的な案までも含めてすごく出ていたと思うのですが、あの報告などを受け、市長の受け止めに教えてください。

【市長】 本当にあれだけ高校生、大学生が集まっていたというのは、正直想像してなくて、来ていただいたことについては感謝したいと思っています。どちらかというところ、今までは声をかけないと、その年齢層の方は来ていただけないというのがあったんですけども、今回は自主的に来ていただいているということで、これからの市政に対する期待というのを感じましたし、本人たちがすごく当事者意識を持っていただいているというのは驚いたというところもあります。自分の高校時代は、そんなこと考えたこともなかったのです。ひょっとしたら今の人たちにとっては当たり前なのかもしれませんが、自分がそうでなかったということもあって、正直驚いたというのもあります。

内容については、若いのだから自由に突拍子もないことを考えてもいいよみたいな言い方はあるかと思います。先ほど言われたように、具体的に実現してほしいと行政に対して思っているようなことを意見として言われていたと聞いておりますので、そういう意味でも、これから総合計画、それから具体的に事業を考えていくときに、参考になるものというのはいんじゃないかなと期待しています。

個々には、また見ていかなければいけないんですけども、いいワークショップになったと思っています。

【記者】 新幹線関連で質問します。

先月、新幹線のダイヤ、具体的に時刻も出てきまして、例えば始発とか終電の時間ですとか具体的な時間帯も含め、特に出てきた時刻表に対して思ったことがありましたら、まず教えてください。

【市長】 敦賀市にとっては非常にいい時刻表だと思いました。これが終着駅なんだなど。

例えば、午前中に東京で会議があるのであれば、ひょっとしたら北陸新幹線のほうを使うのかなというようなダイヤ編成になっていますし、終点だから一番遅い電車も敦賀まで来ることになります。途中のものもありますけれども、遅い時間までありますし、そういう意味では終着駅敦賀にとっては非常に利便性の高いダイヤになっているのではないかと思います。

【記者】 関連になるんですけども、ハピラインふくいでは本数も出てきて、また今月中には時刻表も出てきますが、快速の電車が新しくできるなどの部分も含めて、ハピラインに対する期待等ありましたら教えてください。

【市長】 ハピラインはこれからどうなるんだろうと皆さん思われていたと思うのですが、特に快速は今までの特急と比べてもそんなに時間の差がないぐらいの利便性ですし、大体、三セク化すると、資金面のこともあって、様々なことで難しくなるのかなと思っていたら、むしろ地域の実情に合ったダイヤ編成、それから快速の設定とかになっているなと思いました。

例えば、敦賀から福井や丹南のほうに通学とか通勤する人は、結構いらっしゃると思うのですが、皆さんが新幹線で行くわけではなくて、これからはハピラインを使って行くということを考えると、本当にいいダイヤ、いい快速の設定だなと率直に思いました。

【記者】 2点お聞きします。まず1点目、幹事社からもありました能登半島の地震につきまして、市内で今、東口の工事などが進んでいる、再開発などもあると思うんですけども、そちらに関して、現状で何か影響など把握されているものはありますか。

【市長】 現在は、影響は特に聞いてないです。今日、仕事初めでスタートしたばかりですけれども、特に報告も上がって来てないです。

【記者】 もう1点。新幹線と、もう一つ、人口減少対策にしっかり取り組んでいきたいということを先ほどおっしゃっていましたが、改めて、人口減少対策として、特に今年こういうことを始めていきたい、こういうことを進めていきたいなど、ご自身で考えていることがありましたら教えていただければと思います。

【市長】 人口減少対策については、記者会見、議会ではしっかり答弁をさせていただいていると思っているんですが、今の人口減少を完全に食い止めて、維持とか、あるいは増やすということがすぐできるのかといたら、これは多分できないと思うんですね。

ではどうするかというと、一つは減っていく人口に対応するというのがまず一つ。それから、そうは言いながら減っていくということに対しての悪影響、特に急激な減少に対

応するというのはなかなか難しいと思いますので、しばらくは減少の局面が続くにしても、そのスピードを緩やかにするという事は大事だと思っています。

では、敦賀の現状はどうかというと、ここ10年ぐらいで出生数は3分の2になっている。600～650人生まれていたのが去年は401人、今年は多分400人を切って300人台になるだろうというペースです。

出生数が3分の2になっている、なぜというのを見たときに、このなぜで結構難しいんです。因果はまだはっきり言えないけれども、婚姻数もこの10年間で3分の2になっているというところがあります。まだ原因をぐっとつかみ切れては無いものの、やはり結婚支援から始めていくというのがいいと思っています。

去年ぐらいまでは、あまり結婚支援ということ言ってなかった、全国的にもなかった気がするんですが、昨年ぐらいから急にあちこちの自治体で結婚支援に力を入れるという話になってきたのも、各地で大体そういう認識になってきているのかなと思います。敦賀もデータを見てみるとそういうことなので、ご多分に漏れずそこからやっていくと思います。

その次に、結婚の数を何とか維持、増加させる。そして出生数が例えば維持、あるいは増えたとしても、現状はものすごいペースで落ちているので、それを何とか緩やかにしたとしても、結局、18歳で進学のため県外に出て、福井県のデータだと3割弱しか戻ってこないというのであれば、ただでさえ出生数が減っているところに、ここのUターン率が今のままだと減っていくのは変わらないということです。一つやるべきことは、Uターン、その時点での新卒でもいいし準新卒でもいいんですけども、なるべく早いうちに敦賀に帰ってきていただくということが必要ではないかということで、今そういう意味で進めようと思っているのがホームタウン奨学金。

もともと奨学金というのは学業支援であることは間違いないのですが、そこにUターン支援ということも加味したような、そういう制度の導入を検討しているというところなんです。もう一つは、その奨学金を利用して帰ってくるには、そもそも敦賀で暮らしたいということを若いうちに思ってもらわないといけないということで、敦賀にどういう仕事があるのかということをお中高生のうちからなるべく見ていただく。

敦賀市には、いい職場、会社もありますので、そういうところも見ていただくようなこともしていきたいと思っています。学校関係でいえば、若くて敦賀で生き生きと仕事をしている人、ロールモデルになるような人に、ふるさと事業みたいな形でやっていただくな

ど、そういうことをして、進学で一回県外、市外に出るといいんですけども、ゆくゆくは敦賀で生活したいと小中高生のうちに思ってもらえるような、取組みもやっていかないと、幾ら奨学金を設定しても帰ってきてくれないというのはあるんだろうと思っています。

議会でも申し上げたのですが、少子化対策というのは、今までどこの市町もあまり成功してないんです。これについては正直、トライ＆エラーみたいなところがあって、やれること、ちょっとこれ行けそうだなと思うことはどんどんトライしていこうと思っています。あまり行政がこういうのを言うのはよくないんですけども、失敗を恐れずやっていけたらと思っています。

**【記者】** まず新幹線の点で伺います。

年末の政府の新年度の予算で、敦賀以西について14億円余りが調査費として盛り込まれましたけれども、敦賀開業、そして敦賀以西ということで、今年度とあまり変わらない額ではあるんですけども、14億円という数字について、調査費が盛り込まれたことについての受け止めをまずお願いいたします。

**【市長】** 14億円という数字は、多分、去年よりもちょっと増えているぐらいですかね。こういう調査費がつくことは非常に大事だと思っています。事業化されるにこしたことはないのですが、いろんな事情で事業化まで至っていない中で、何もしないのかというと、新幹線敦賀以西、一日も早く着工する、あるいは一日も早く大阪までつなぐという意味で、今回、それから今年度にしっかり予算がついている。規模としては事業化したのと変わらないぐらいの予算がついているというのは大事なこと。先ほど言いましたように一日も早く着工、一日も早く大阪までつなぐという意味で、すごく大事なことだと思っています。

**【記者】** 関連してなんですけれども、やはり敦賀以西のルートをこれから事業化に向けてとなると、つないだ先の関西地方の理解というのがより進むところがまず一つ鍵なのかなと思っています。今年3月の敦賀までの開業で、関西まで、あるいは首都圏までも含めて、また敦賀以西への機運を盛り上げるために、どういったところをアピールしていきたいか。

今までのところとかぶる部分もあるかと思うんですが、伺わせていただければと思います。

**【市長】** 沿線理解ということで、関西方面については、関西の広域連合の知事さんとかのいろんな会議での発言をお聞きしていると、結構行政のほうの理解は進んでいるなど



思っています。それが今度、一般の市民の方、住民の方にどれだけ浸透していくかということが鍵になるかと思えます。

これは嶺南から、それから京都、大阪にかけてということになると思うんですけども、北陸新幹線が敦賀までまず来ますということで、北陸新幹線が敦賀に来て、たくさんの人に福井なり敦賀なりまで来ていただくということ。そこで一つのにぎわいをつくっていく、利便性があると思っただくということが、敦賀以西を早く整備していかないといけないという機運の高まりにもつながると思っています。よく嶺南の市町の首長と話をするんですけども、先ほど言いましたように新幹線開業効果の最大化と言っていますけれども、これで頑張っていき、盛り上げていければ敦賀以西にもつながると思っていますということを常々申し上げています。そういう意味で、これから以西については沿線理解も含めて高めていくには、敦賀開業というのをまず成功させるということが大事だと思っています。

**【記者】** もう1点、先月の中旬にありました敦賀2号機の規制委員会の視察について伺います。

特に日本原電には規制委員会から、調査後の規制委員のぶら下がりでもあったんですけども、特に大きな指摘事項というのはないと。そういった中で、断層のようなものが見えるだとか、追加の資料提出というようなお話がありました。

今回の視察を受けて、市長が今回、再稼働に向けて進んだと評価されているかどうか、ぜひ受け止めのほうを伺えればと思います。

**【市長】** 現地調査をされたということも含めて、やっと本質的な安全性の議論ができる、そういう段階になったと思っています。そういう意味で、前向きに捉えているというところです。

現地調査をした上で、断層の話なども出ていたんですけども、規制委員会のほうで、そういうことも含めてしっかり調査されているということなんだろうと思っています。

私のイメージとして、そういう意味でいうと、しっかりと調査をしていただいているという印象を持っています。逆に言えば、これだけちゃんと見ていただいているものをクリアするというので、我々の信頼性も高まるのではないかと考えていますので、しっかりと審査をしていただければと。

それから、原電においては、一つ一つのエビデンスを示しつつデータを積み上げて、調査、それから安全性に至る結論に向かうまで協力していただきたいなと思っています。

【記者】 冒頭からのお話も出ていますけれども、今回の能登半島地震で、新幹線に関連してなんですけれども、施設の点検などJRがやっていらっしゃると思うんですけれども、心理面で開業に水を差すような心配というのは思っていますでしょうか。

【市長】 心理面というので、例えば、石川県のほうで観光に対する影響とかいうことは心配されているだろうとは思いますが。

敦賀市としてどう思うのかということ言えば、新幹線のことも含めて、日常生活をある意味、今までどおり送り、地域経済、それは敦賀市内ということはもちろんですし、ひいては北陸の経済圏をしっかりと循環させていくということが、これからの復興のステージとかで大事になってくるのではないかと考えています。

亡くなった方も大勢いらっしゃいます。哀悼の気持ちは、私だけではなくて敦賀市民の方は皆さん、お持ちだろうと思えますし、復旧・復興に対して協力していきたいと。それは市民の皆さん、思っているだろうから、市としても全力で取り組んでいくという一方で、先ほど新幹線もそうですけれども、例えばイベントに関しても、そこは盛り上げていく。北陸新幹線による経済効果を北陸圏でしっかりと高めていくということが、長い目で見たときの、中長期的に見たときの復興支援になるだろうと考えています。

そういう意味で、現地に対する支援というのもしっかりとやっていくし、我々が日常生活を送ることが復興支援になっていくということは、あまり大きい声で言うことではないと思うんですけれども、皆さんにご理解いただきたいところだと思っています。

【秘書広報課主幹】 ほかにございませんか。以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。

午後2時10分終了